

大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）
「デジタルを活用した大学・高専高度化プラン」採択事業

ー統合プラットフォーム構築とAI-ティーチングアシスタント
の導入による学修者本位の教育の実現ー
～ OIDA I WIL Plus MATCHによる教育の高度化 ～

追手門学院大学
図書・情報メディア部 小島 香住

自分史上、
想像以上!

本日お話をさせていただく内容です。

1. 追手門学院大学の概要

2. OIDAI WIL & OIDAI MATCH

3. コロナ禍での本学の対応

4. デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

1. 追手門学院大学の概要

創立	1888年に大阪鎮台の司令官高島鞆之助中将が、今井兼利少将他陸軍将校らの主唱により創設した大阪借行社附属小学校に端を発する。1940年に大阪借行社附属中学校開校、その後終戦に伴って「大阪借行社学院」は解散し、法人名を「追手門学院」と改め、「追手門学院小学部」「追手門学院中学部」を設置した。1950年に「追手門学院高等学部」が開設され、以後は小・中・高の三学部を擁する総合学園として教育活動を行ってきた。追手門学院大学は、追手門学院創立80周年記念事業の一つとして開設が計画され、1966年4月、2学部4学科の大学として創立された。
学生数	学部7,916名、大学院70名
教職員数	専任教員192名、専任職員155名
入学志願者数	32,293名
学部数等	6学部、4研究科 中・高等学校、大手前中・高等学校、小学校、こども園
キャンパス名	設置されている教育組織
大手前	大手前中・高等学校、小学校
茨木安威	経済学部、経営学部、心理学部、社会学部
茨木総持寺	地域創造学部、国際教養学部、中・高等学校
豊中	こども園

2. OIDAI WIL (Work-Is-Learning)

- ▶ 未知の領域で試行錯誤し、必要な知識を取り込みながら独自のアウトプットを目指す
- ▶ 実践と学習は一体のものとして経験
ワーク＝ラーニング
- ▶ 行動して学び、学びながら行動する
- ▶ やりっぱなしにせず振り返りする

2. OIDAI WIL (Work-Is-Learning)

正課・課外を越えた学びへ

グローバル化やデジタル化を背景に社会は目まぐるしく変化し、より複雑化・高度化しています。変化のスピードが加速し、予測が困難な状況下では、行動しながら自ら課題を発見し、その解決に必要な知識や技術・能力を獲得しながら、課題に立ち向かい続ける必要があります。

WIL (Work-Is-Learning) は、主体的に学び、協働して問題解決にあたる追手門学院大学独自の学修スタイル。行動 (Work) を通じて学修 (Learning) を行い、それを即実践に反映する経験を蓄積することで、予測困難な状況の中でも行動し、学び続ける力を養います。

追大では授業や学内外で実施される様々な活動をWILプログラムとして登録、認定し学生の主体的な学びの場を提供しています。



2. OIDAI WIL (Work-Is-Learning)

WIL REPORT

活動レポート

自分史上、
想像以上!

WILの学びの成果は、
SDGsの実現にもつながっています。



2021.04.19

専門教育 経営学部

ビジネス心理専攻 卒業演習



2021.04.13

専門教育 経済学部

コース演習I <藤好ゼミ>



2021.03.01

専門教育 経営学部

発展演習1・2 <宮崎ゼミ>



<https://www.otemon.ac.jp/guide/neweducation.html>

2. OIDAI WIL (Work-Is-Learning)



**ニュースや経済事象を読み解き、掘り下げる力を身に着け、
経済社会や企業の課題解決について学内外で発信します。**

国内外のニュースや経済事象を読み解く力を身に着けます。ゼミでは興味のあるテーマを掘り下げて発表や討論を行います。これを土台にして関西広域連合が主催する、政策提言を行う学生意見交換会に出場。ゼミ生はチームごとに協力して「テーマを掘り下げて、問題点を見極め、オリジナリティを加えて、プレゼンする」というプロセスの中で大きく成長します。2020年には2年連続で優秀賞を獲得しました。

2. OIDA MATCH (MAXimized-TeaCHing)



アセスメントポリシーに基づいた
PDCAサイクルを実施し
学生にとって常に最適なカリキュラムを提供

“供給者本位の教育”を脱却し
“学修者本位の教育”の実現へ

- ☑ 105分授業×13週で広がる教育の幅
アウトプット中心の授業展開
授業外の主体的な活動にも挑戦しやすく
- ☑ 授業毎に到達度を確認

2021年度
より開始！



“アナログ”から
“デジタル活用”へと
変革し教育環境を大幅に改善

- ☑ 1人1台ノートPCを必携
- ☑ 電子図書館や学習支援システムの充実
いつでもどこでも学べる環境へ
- ☑ 対面×オンラインのHYBRID授業

電子図書館として
はLibrariE
やKinoDen、
各種電子データ
を整備

電子図書館サービス

LibrariE

紀伊國屋書店 学術電子図書館

KinoDen
Kinokuniya Digital Library

データベースを目的別に探す

電子書籍を 読みたい	電子ジャーナルを 読みたい	本や雑誌、資料を 探したい
辞書・辞典を 探したい	雑誌記事・論文を 探したい	新聞記事を 探したい
法令・判例を 探したい	白書・統計・行政情報 を調べたい	企業情報を 調べたい
オーストラリアに ついて調べたい		

データベースのキーワードで探す

3. コロナ禍での本学の対応

学びを止めない！ 2020年4月9日から授業実施

全ての授業を、オンデマンド型を含むWEB活用型の授業に
学期開始にあたり副学長、各学部長から動画配信

追手門学院大学（大阪府茨木市：学長 真銅正宏）は、新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止および緊急事態宣言を受けて対応を強化し、4月9日からの春学期の全ての授業を、オンデマンド型を含むWEB活用型の授業で実施（2020年7月22日まで）しています。

対面授業中心の平常時とは異なる形で春学期がスタートしたことから、入学時の学長メッセージ動画に加え、副学長および教務部長による授業開始に向けたメッセージ動画、経済、経営、地域創造、社会、心理、国際教養の各学部長と、初年次教育などを担う基盤教育機構長によるメッセージ動画を、教職員手づくりで製作（内製化）し配信しています。

また、オンラインによる遠隔授業についても実際の授業（経営学部3年生のゼミナール）の様子を動画にし、配信しています。今後も電子図書館、クラブ紹介などの動画を製作（内製化）し、在学生への情報提供を動画でも行っていきます。



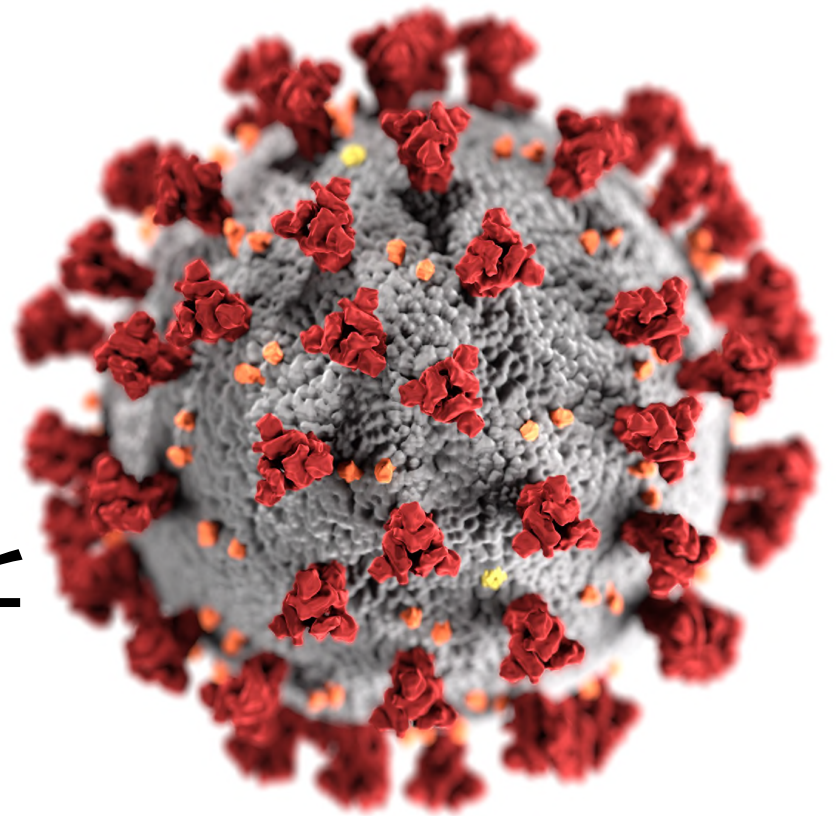
オンラインによるゼミの様子：4月10日撮影

プレスリリースより2020年4月13日配信

3. コロナ禍での本学の対応

なぜ2020年4月から学びを
止めないことが可能だったのか？

追大がコロナ禍前に
進めていたこと

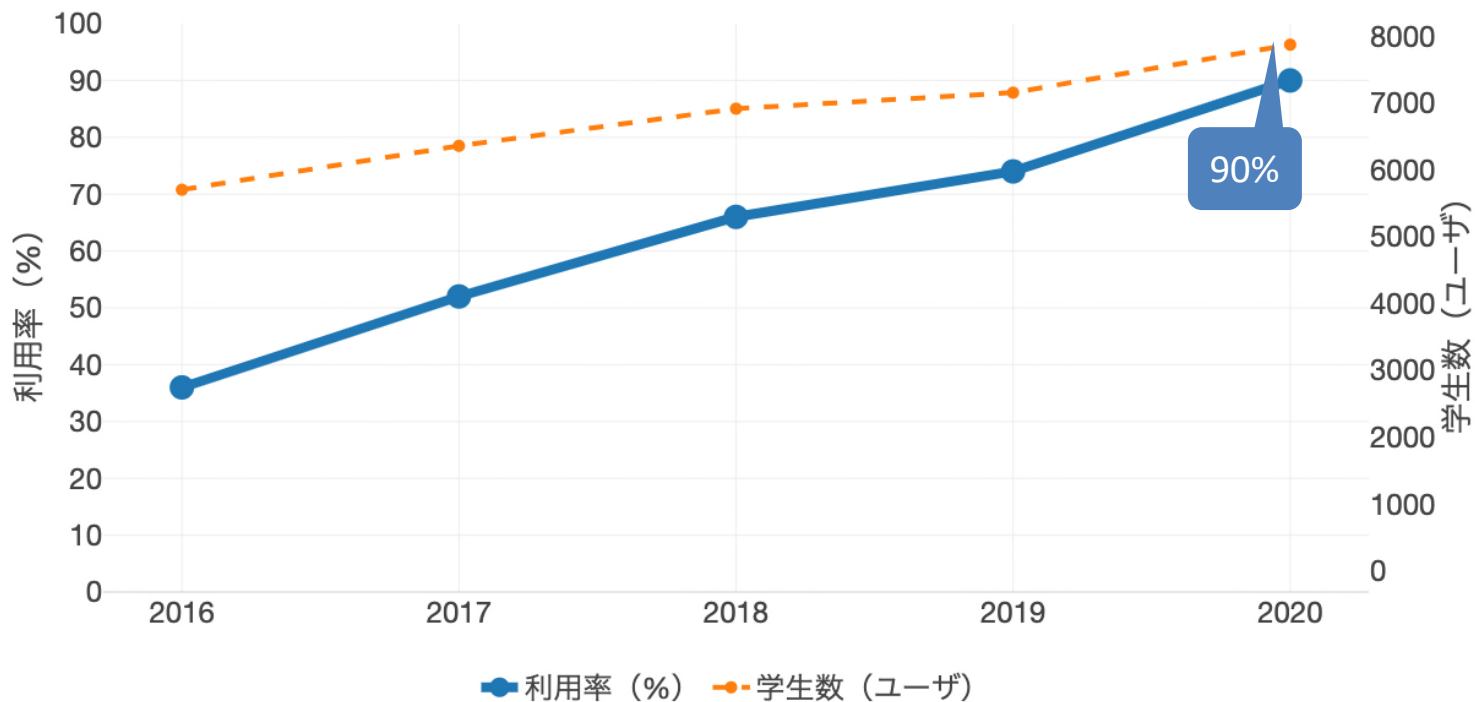


①LMSとしてWebClass（ウェブクラス）導入

- 国内の大学向けに開発された国産のLMS
 - 授業支援システムとして、大学教育において必要な機能が利用可能
 - タイムライン機能、資料公開、小テスト・アンケート・レポート作成・採点、掲示板・チャット、お知らせ、メッセージ機能など
- 2014年8月に導入、2015年4月より段階的に稼働を開始
- 全学の授業で、教員～学生間のコミュニケーションにおいて利用中

①LMSとしてWebClass（ウェブクラス）導入

2016～2020年度のWebClass利用状況推移



年々利用が増加傾向にあり
フルオンライン授業において利用が必須となった2020年度は
90%を超える利用へ

①LMSとしてWebClass（ウェブクラス）導入

WebClass Language ▾

Welcome to WebClass

Web Class USER

ようこそWebClassへ! ユーザIDとパスワードを入力してログインボタンをクリックしてください。

GUEST USER

IDをお持ちでない方

PC・タブレット・スマホで、いつでもどこでも

授業資料を配布

紙レポートをデジタル化して学生へ返却

タイムラインで授業の流れをフォロー

追手門学院大学
OTEMON Learning Management System
学修支援システム

小テスト機能

チャット機能 (テキスト&画像)

収録した授業の動画配信

クリッカー (アンケート) 機能

お知らせ

最新 1件

[WebClassメッセージ受信時の通知メールアドレスについて](#)

システム管理者 - 05/14

» [お知らせ画面](#)

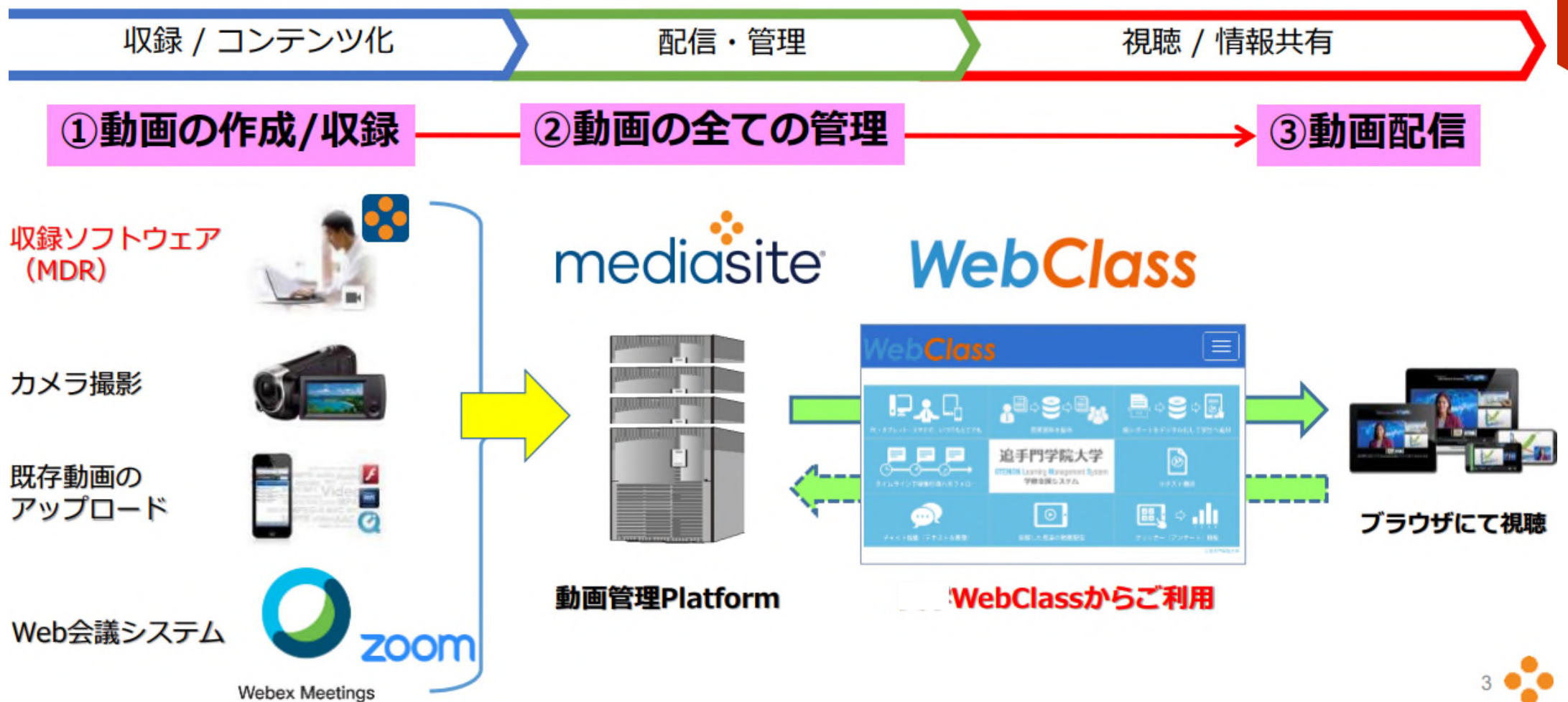
Ver.11.10.0

<https://www.datapacific.co.jp/webclass/>

②動画配信システムとしてMediasiteの導入

- 教育業界を中心に利用されている海外製の動画配信システム
映像の制作～配信～コンテンツ管理が可能
- 2020年3月に導入し、2020年4月より稼働を開始
従来は別の動画配信システムが導入されていたが、利用はほとんど無し
MediasiteはWebClassとLTI連携が可能
※LTI (Learning Tools Interoperability) はLMSを外部ツールと連携させるための技術標準となる仕様
- オンデマンド授業向けの動画配信において利用

②動画配信システムとしてMediasiteの導入



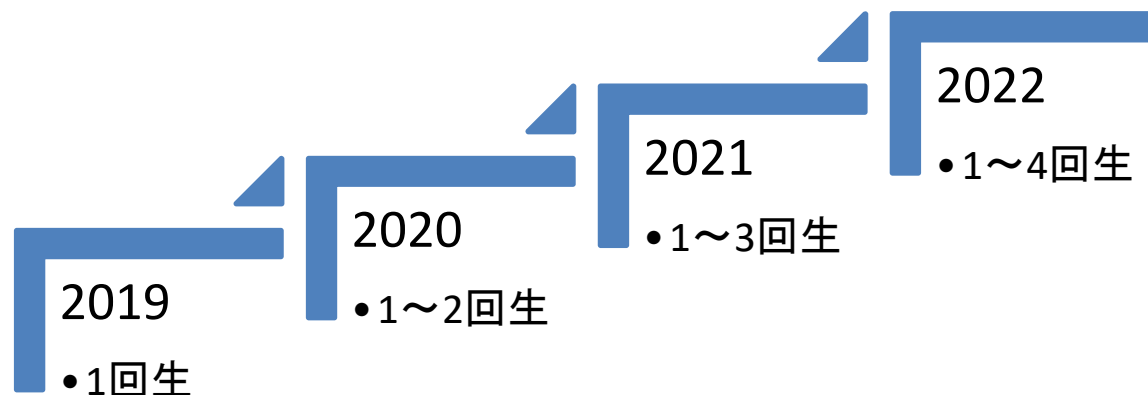
<https://www.mediasite.co.jp/>

③BYOD導入

2019年4月の新キャンパス開設を契機に・・・

従来の授業形態からの脱却を目指して

2019年4月の新生より
BYODを実践することを決定



③BYOD導入

主なBYOD向けの導入システム

- 高負荷に耐えうる大容量インターネット回線（10Gbps）
- 大量の端末が接続可能なWi-Fi環境
 - 無線LANアクセスポイント約180台（安威は建屋10棟以上で約320台）
- BYOD端末からのスムーズなファイルアクセス
 - Dropbox Business
- BYOD端末における特殊なソフトウェア利用
 - Palallels RAS（Harukaアプリ）
- 貸出パソコン
 - セルフ貸出処理可能なPC貸出用ロッカー、貸出用パソコン200台

3. コロナ禍での本学の対応

教育開発センターの取組 TIPS集作成や相談会の実施

The screenshot shows a web browser window displaying a WebClass page. The address bar shows the URL: lms.otemon.ac.jp/webclass/course.php/2001070/?acs_d09cc456. The page content is organized into several sections:

- 資料** (Materials): A list of materials with links to details.
 - 5. 対面+ライブ (対面+ライブ) [詳細](#)
 - 6. ライブ+オンデマンド (ライブ+オンデマンド) [詳細](#)
 - 8. その他 (その他) [詳細](#)
- オンライン授業活用に関する TIPS 集 (第1弾)** (Online Class Utilization TIPS Collection (Vol. 1))
 - 1. 対面 (対面) [詳細](#)
 - 2. ライブ (ライブ) [詳細](#)
 - 3. オンデマンド (オンデマンド) [詳細](#) (利用回数 1)
 - 4. 対面+オンデマンド (対面+オンデマンド) [詳細](#)
 - 5. 対面+ライブ (対面+ライブ) [詳細](#)
 - 6. ライブ+オンデマンド (ライブ+オンデマンド) [詳細](#)
 - 7. ハイフレックス (ハイフレックス) [詳細](#)
 - 8. その他 (その他) [詳細](#)
- シラバス作成支援ツール** (Syllabus Creation Support Tools)
 - シラバスの「到達目標」と「評価方法」を適切に記述するための支援ツール [詳細](#)
 - シラバスの「到達目標」と「評価方法」を適切に記述するための支援ツール (ワークシート) [詳細](#)

On the left side, there is a sidebar with a notice:

としてご利用ください。

「オンライン授業活用に関する TIPS 集」へのご入力にご協力をいただき、ありがとうございました。
第一次募集 (12月16日～1月16日) 期間に入力いただいた情報を、授業形態別にまとめました。次学期に向けた授業改善のヒントとしてご利用ください。

現在、3月19日まで第二次募集をしております。WebClassの該当ページよりアンケートの回答にご協力をお願いします。 02/27

[» さらに過去の記録を取得](#)

On the right side, there is a sidebar with the text: オンライン教材の著作権関係 WebClass関連

3. コロナ禍での本学の対応

情報メディア課のサポート

- サーバーの増強(LMSなど)
- 大量の電話またはメールによる問い合わせへの細やかな対応
- Wifiルータ、パソコンの貸出
- コンテンツ作成時のTIPS作成(前述の教育開発センターと協力)
- チャットボット導入

■ コンテンツ作成時のTIPS

こちらには、教育開発センターとも協力しながら、コンテンツ作成に役立つような情報を随時追加していきます。

PowerPointへの音声挿入手順 教職員限定公開	PowerPointに音声を付けて、動画ファイルとして作成する手順を紹介しています。
オンライン授業のためのヒント集 Ver.1 教職員限定公開	オンライン授業でのレッスンプラン例や、授業の工夫などを紹介しています。
オンライン授業に関わる他大学のサイト(オンライン授業のためのヒント集 Ver.1追加資料) 教職員限定公開	オンライン授業に関わる他大学のサイトを紹介しています。こちらも併せてご覧ください。
Windows10 Wifi 周波数帯域の確認方法 教職員限定公開	使用PC(Windows10)に接続しているWifiの周波数帯域が「2.4GHz帯」か「5GHz帯」が確認する手順について紹介しています。
ミニッツペーパー-簡易印刷用マクロの使用法 教職員限定公開 <small>※本手順はmac OSでは利用できません。</small>	WebClassの記述式の設問に、学生が回答した内容を一覧表に編集して印刷する手順を紹介しています。手順書と本手順で使用するマクロファイルをZIPファイルでまとめています。ZIPファイルダウンロード後、中身をご確認ください。
ミニッツペーパー-簡易印刷用マクロの使用法(動画) 教職員限定公開	ミニッツペーパー-簡易印刷用マクロの使用法について動画で紹介しています。こちらも併せてご覧ください。動画視聴前に上段のZIPファイル(ミニッツペーパー-簡易印刷用マクロの使用法)をダウンロードしてください。

学生向けe-Learningサポート

e-Learningサポートページ

コンテンツ作成時のTIPS

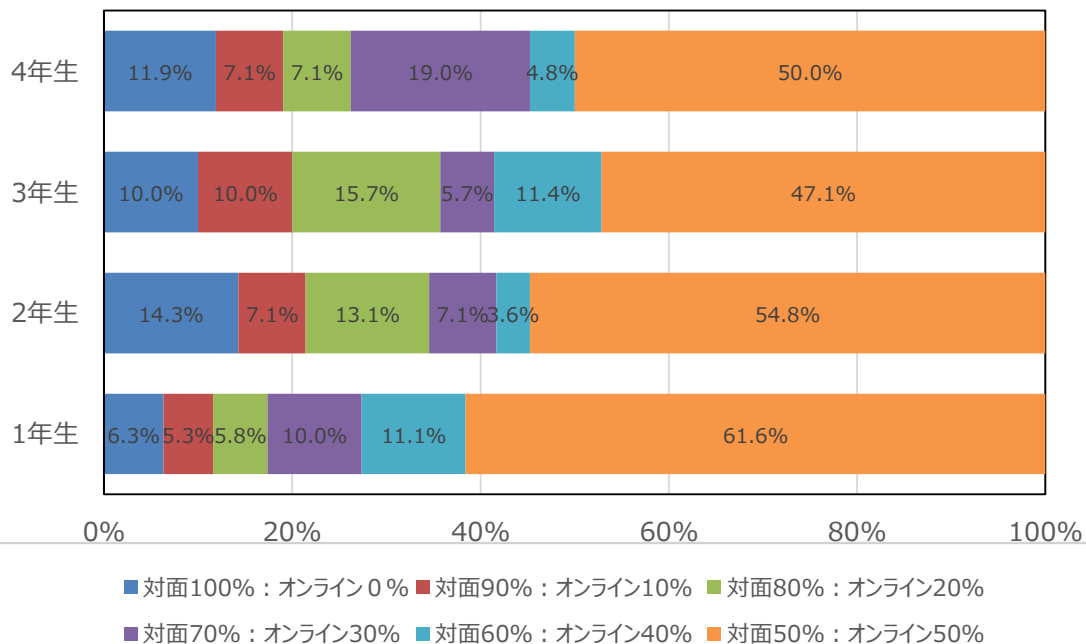
よくあるご質問 (FAQ)

3. コロナ禍での本学の対応

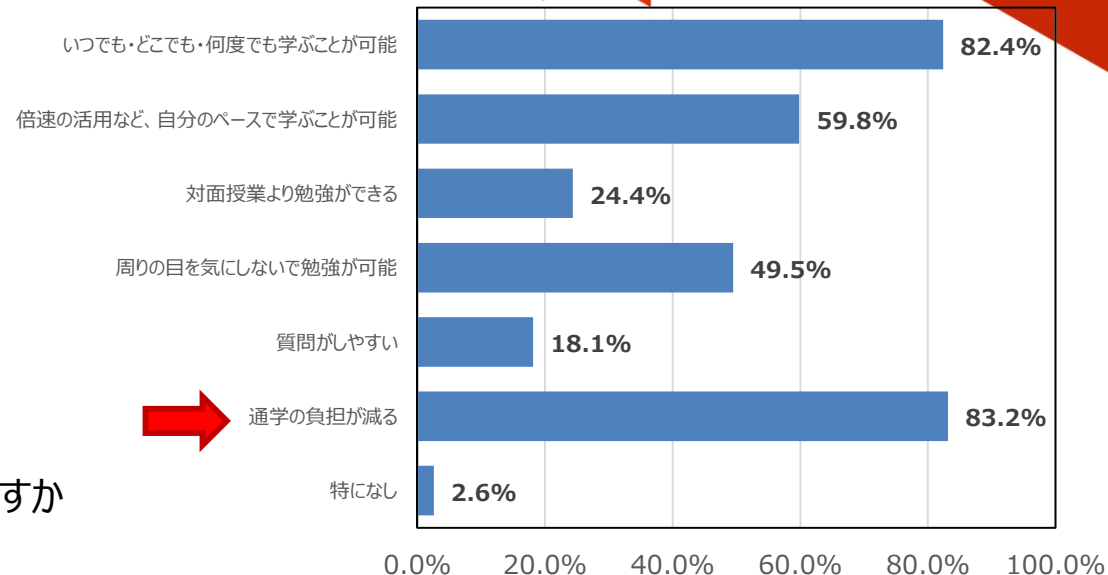
コロナ対応における臨時学生アンケート n=386

- コロナ後の対面授業とオンライン授業の割合は、全ての学年において、「対面50%：オンライン50%」が一番多い
- オンライン授業のメリットは、「いつでも・どこでも・何度でも学ぶことが可能」、「通学の負担が減る」
- オンライン授業のデメリットは、「孤独・友達や教員とのコミュニケーション不足」、「目が疲れる・肩こり等の身体的負荷」

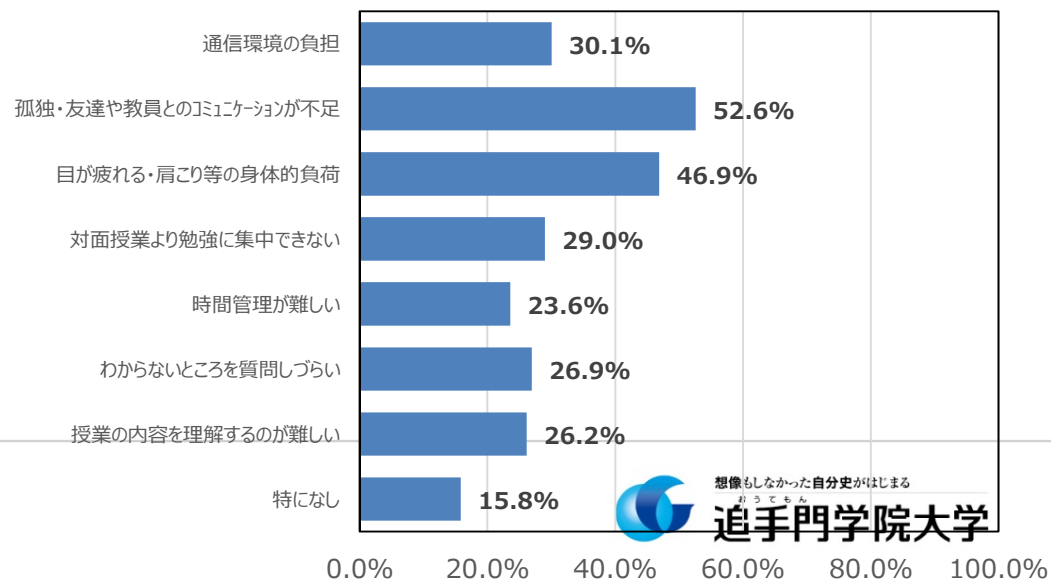
コロナ後の対面授業とオンライン授業の割合は、どのくらいが良いですか



オンライン授業のメリットは何だと思いますか



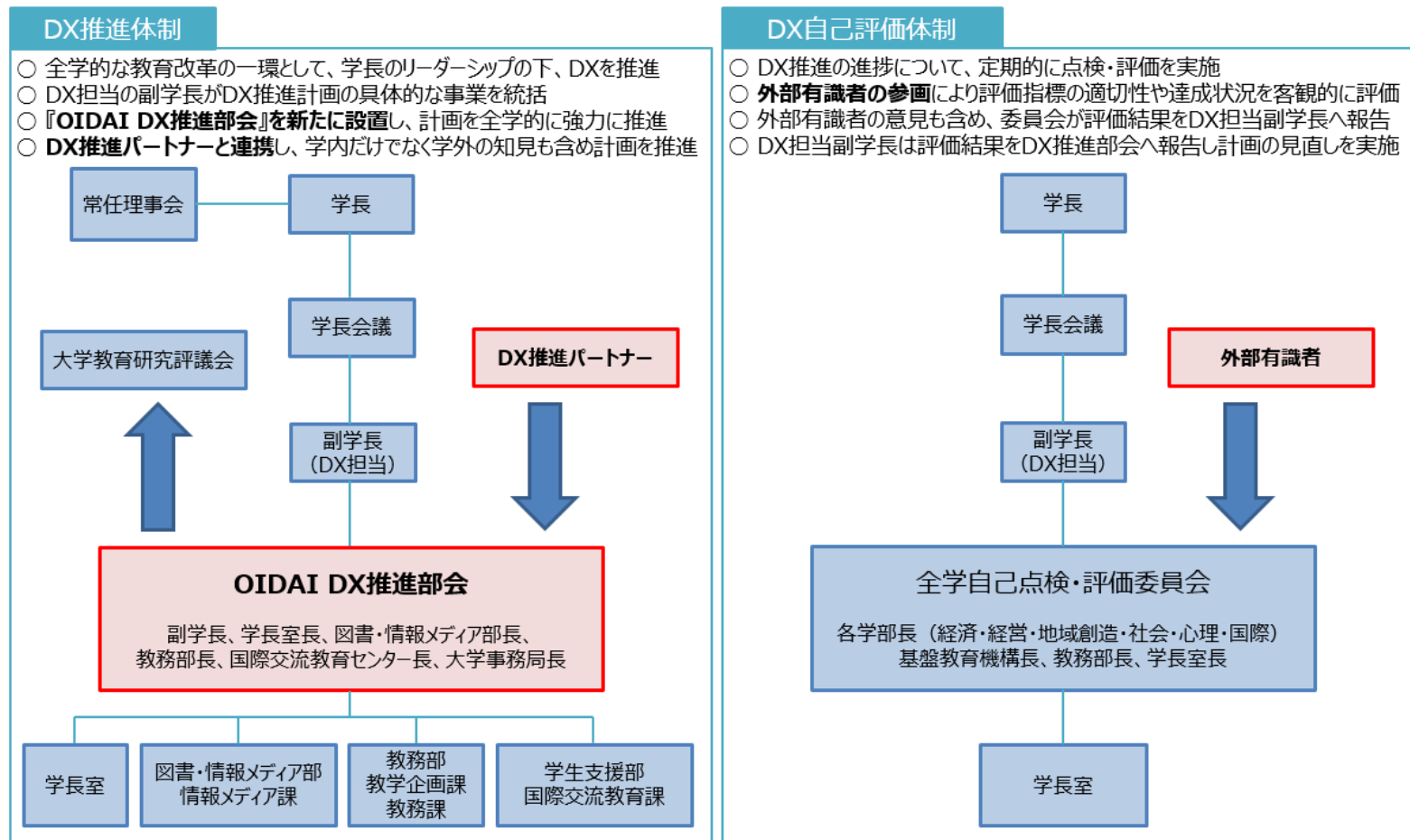
オンライン授業のデメリットは何だと思いますか



4. デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

推進体制

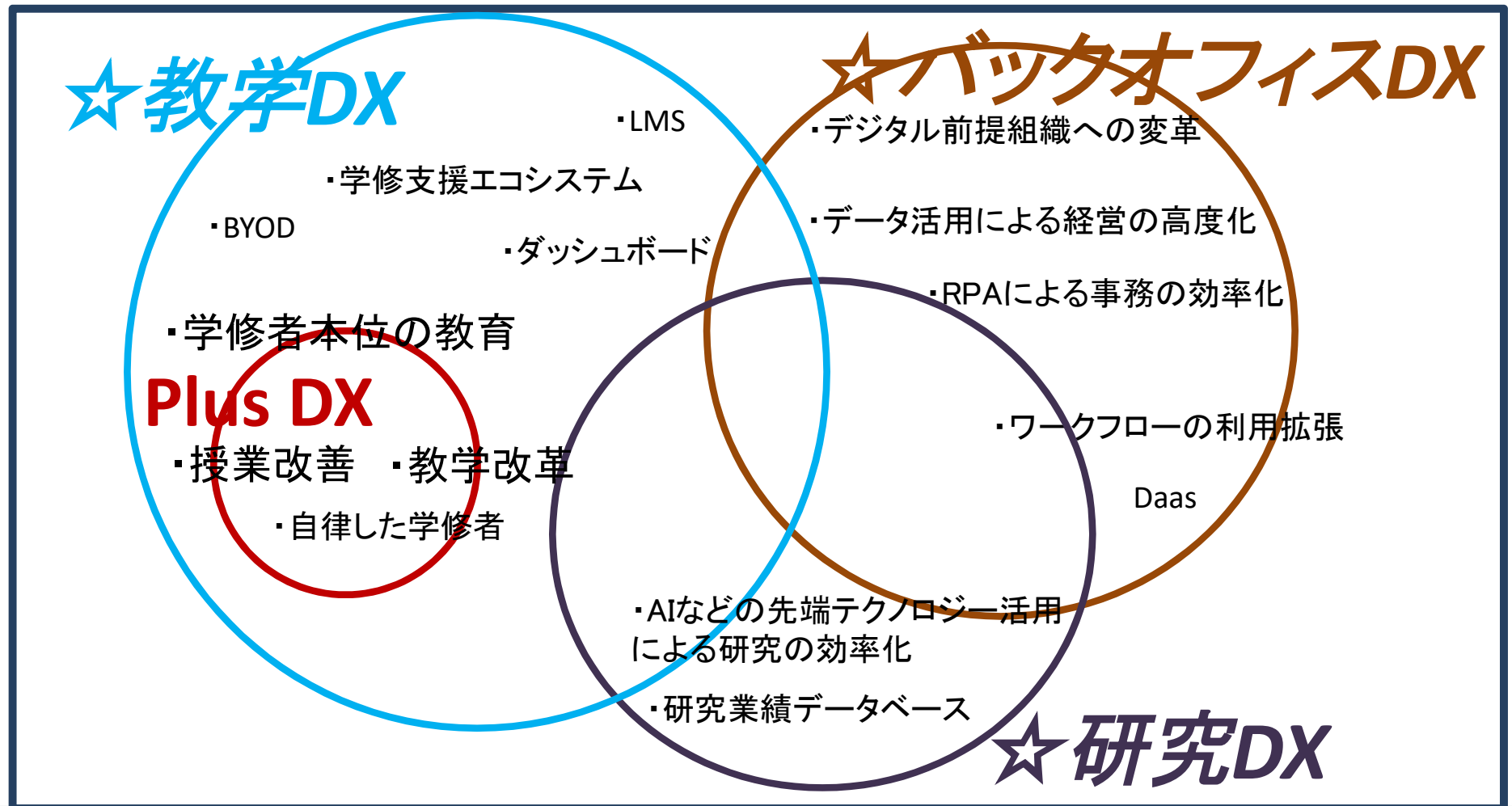
OIDAI DX推進計画 実施体制図



4. デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

本事業の位置づけ

★OIDAI DX



4. デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

大変細かい ポンチ絵(曼荼羅)をおみせします。

https://www.mext.go.jp/content/20210630-mxt_senmon01-000016115_2.pdf.pdf

追手門学院大学 デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

取組名称：統合プラットフォーム構築とAI-ティーチングアシスタントの導入による学修者本位の教育の実現

～ OIDAI WIL Plus MATCHによる教育の高度化 ～

キーワード：#学修者本位の教育 #OIDAI WIL Plus MATCH #システム連携率100%

取組概要：

追手門学院大学では「高い志を持って主体的に学び、新しい社会の創出・発展に協働的に関わることのできる資質・能力・人間性を有する人物」を育成するという教育理念を策定しており、この教育理念を実現するため、本学独自の学修スタイルである「行動して学び、学びながら行動するOIDAI WIL (Work-Is-Learning)」、および本学独自の教育手法である「ICT等を活用し教育内容にマッチした最適な手法で教育効果の最大化を実現するOIDAI MATCH (Maximized TeaCHing)」を実施している。

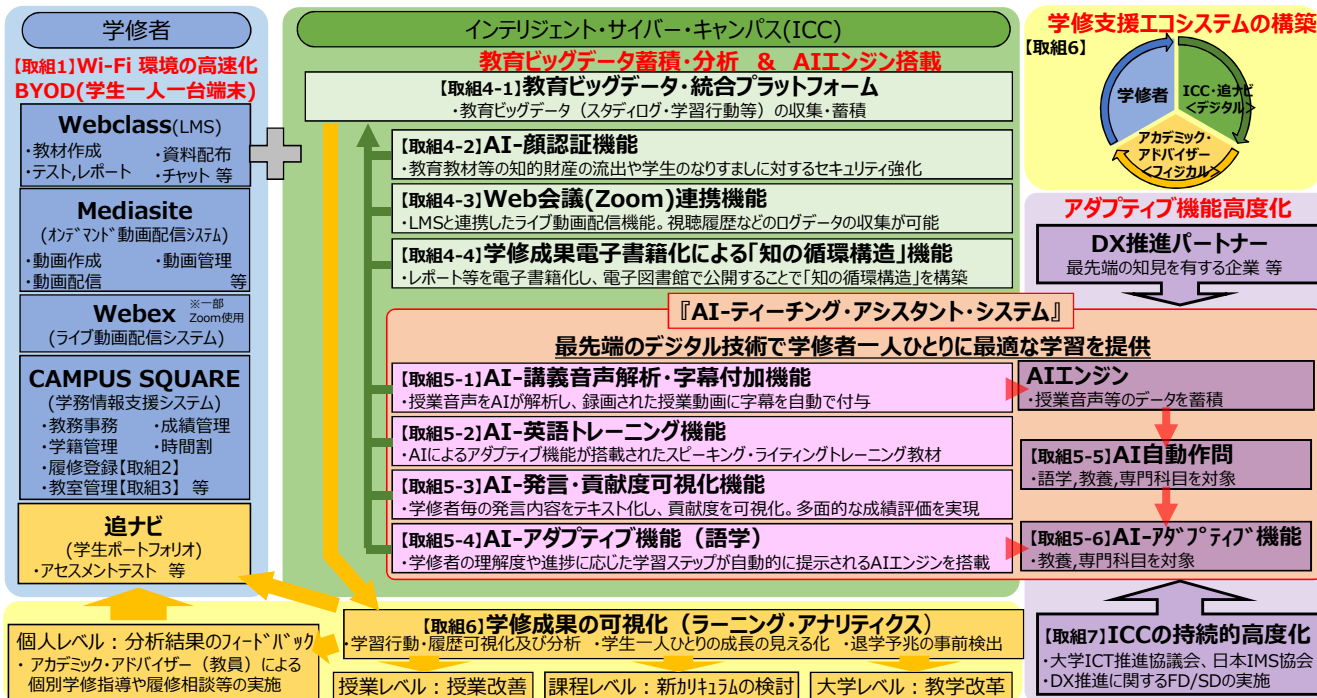
これらのスタイル・手法 (OIDAI WIL Plus MATCH) をより高度化し、追手門学院大学独自の「学修者本位の教育」を実現するために、現在、**独立している全システムの連携率100%を目指し、蓄積された学修ログをAIで解析することで学修成果を可視化しながら、学修者一人ひとりに最適化された教育を提供する環境の構築を図る。**

<機関全体のDX推進計画>

独自の学修スタイルと教育手法 (WIL Plus MATCH) を高度化するために、「OIDAI DX推進計画」として**3つのカテゴリと10の取組**を掲げ、「教育のDX化」を加速。DX推進担当副学長をトップとした「**DX推進部会**」を設置し、**各取組を強力に推進**。また、最先端の知見を有する企業との**産学連携による「DX推進パートナー」**を結成して推進。

【カテゴリ-1】ICT環境の基盤整備	【カテゴリ-2】学修支援の高度化	【カテゴリ-3】新たな教育プログラムの構築
【取組1】BYODによるICT環境整備・キャンパスネットワーク環境整備 【取組2】Capacity FREE (ICTにより教室定員の制限を撤廃し希望の授業を履修可能) 【取組3】Location FREE (授業内容に応じた教室の選択による教育効果の最大化)	【取組4】「インテリジェント・サイバー・キャンパス」の構築 【取組5】「AI-ティーチング・アシスタント・システム」の構築 【取組6】「ラーニング・アナリティクス機能」整備と「学修支援エコシステム」の高度化 【取組7】「インテリジェント・サイバー・キャンパス」の持続的・高度化	【取組8】「長期実践的インターンシップ」プログラムの実施 【取組9】海外TOP大学等の「オンライン・ラーニング (正課授業)」の積極的利用拡大 【取組10】オンライン・リカレント教育プログラムの推進

<DX推進計画のうち本事業で取り組む内容>



「OIDAI DX推進計画」のうち、カテゴリ 2 の取組 4・5・6 について本事業で取り組む。

取組 4 では、既存のLMSに加え、**各システムを統合するプラットフォームを構築**。さらに、AI-顔認証やWeb会議連携、学修成果電子化等の新たに整備する各ツールも含め、**学生の教育ビッグデータを統合・蓄積し、教育ビッグデータを構成**。

取組 5 では、講義音声解析・字幕付加機能や学修者の発言・貢献度可視化、アダプティブ機能を備えた語学トレーニング機能等の**AI-ティーチング・アシスタント・システムを構築**。最先端のデジタル技術で**学修者一人ひとりに最適な学習を提供**。

取組 6 では、取組 4 の教育ビッグデータを用いて**学修者一人ひとりの学習傾向、学修行動、退学予兆などを分析・可視化**。さらに、分析結果は**教学改革や授業改善にも活用**。

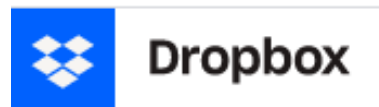
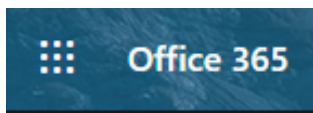
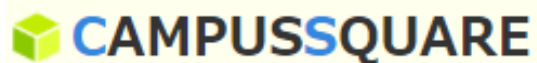
<取組の目標、実現する際の手段や方法、取組をとおして得られる成果>
 既存システムを統合・拡張するプラットフォームを形成し、そこで蓄積される学修ログ等をAIによって解析することで、個々に適した教育を提供できる環境の創出し、教育理念を実現することが目標。取組を通して、授業における到達目標達成度や満足度等の向上を目指す。

4. デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

細かい図でしたので
いくつかを抜粋してご説明させていただきます。

【取組4-1】教育ビッグデータ・統合プラットフォーム

必要に応じていろいろ導入した結果→たくさんのツールが存在
データがそれぞれ存在
使用者からみればややこしい



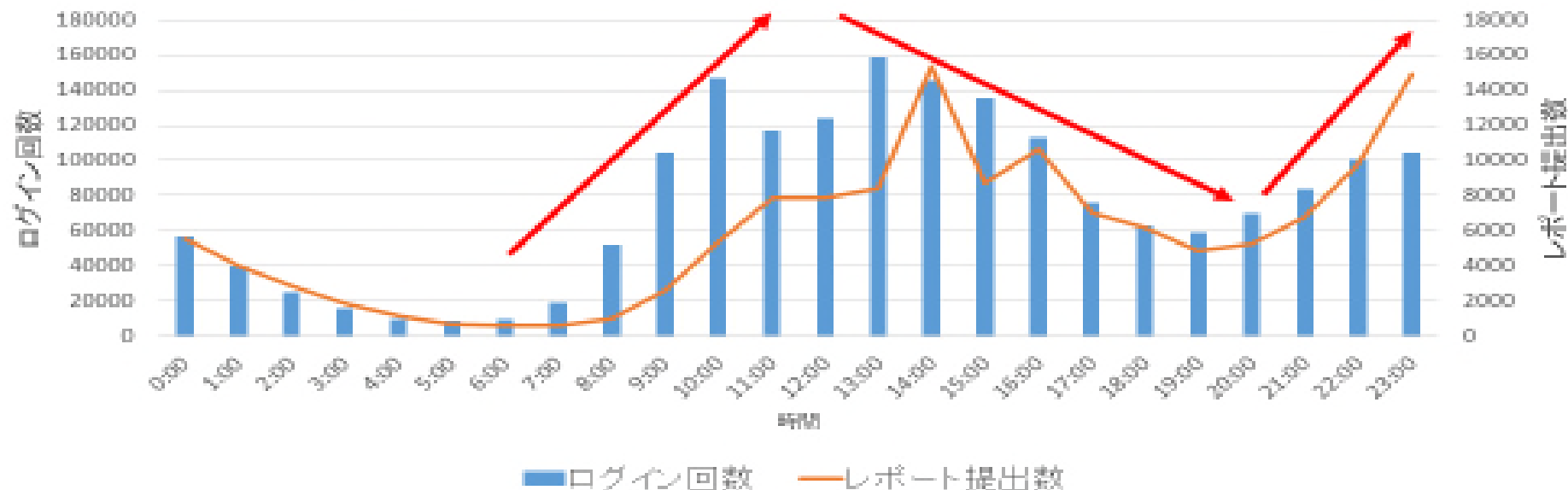
蓄積可能なデータ例

例	入手可能なデータ
教務データ	科目名、シラバス、履修データ
教材データ	テキスト、補助教材
人的データ	教員、学生、TA
成績データ	小テスト、レポート、入試
記述データ	e-ポートフォリオ、レポート、アンケート、SNS
ログデータ	ログイン歴、BBS、出席情報、提出時間
環境データ	映像、気温、天気、明るさ、騒音
システムデータ	使用しているPCやタブレットなどの端末、LMSの種類
生体データ	脈、歩数、発汗、脳波、視線

統合プラットフォームを構築して、教育ビッグデータを蓄積しよう！

【これまでに取得できていたデータ例】

WebClassの時間帯別ログイン数/レポート提出数について



- ログイン数とレポート提出数の継時的推移が同じような動きをしている。
→レポート提出のためにWebClassを開くことが多い。
- 0時前にログイン数、レポート提出数が増加傾向にある。
→締め切り直前で作業・提出をする学生が多い。

本スライドのログイン数/レポート提出数は合計値を使用。

【取組4-2】AI-顔認証機能

顔認証機能の追加（※オプション）～本人確認業務の効率化・なりすまし受講防止・セキュリティ強化～

KnowledgeDeliverを用いて受講している人が登録されている本人と分かるよう、顔認証機能を追加しました。

実際の受講時に操作している人の顔を受講デバイスのカメラで撮影し、受講者が認証用に事前登録した顔画像と比較、認証結果が「成功」となった場合のみ受講できるようにしました。

認証用顔画像の事前登録に対しては、管理者が承認ないし否認を行い、承認された顔画像が以降その受講者の認証用として用いられます。顔認証の使用有無は単元単位で設定し、

- ・テキスト単元
- ・テスト単元
- ・レポート単元
- ・アンケート単元にて利用可能です。設定された単元では、認証前は「開始する」ボタンを押すことができず、顔認証が成功して初めて受講を開始することができます。

教員が受講者の本人確認をしたいと考えたときに使用できるように準備しておきます。

<https://www.digital-knowledge.co.jp/archives/24556/>

●顔画像情報



●顔認証結果一覧



●受講開始画面



●（認証成功後）



【取組4-4】学修成果電子書籍化による「知の循環構造」機能

学生のレポートや卒業論文等を電子書籍化し、
電子図書館やゼミ内、学部内等で公開することで「知の循環構造」を構築！

PDF化するだけでは得られない書籍化のメリット

- ・読上げ機能
- ・自動目次作成機能
- ・変換が完了するとEPUB
ファイルと、ブラウザ上で
すぐ読める作品URLが生成さ
れる。

Romancer

トップ 作品事例 制作サポート いろいろ情報 ログイン 無料で始める

気軽に、真剣に、 デジタル出版。

原稿執筆からEPUB完成まで必要なものだけ用意しました
Romancerはあなたのためのデジタル出版ツールです

からこそ今が、
言葉を獲得したとき
デジタル技術が
だから重要なので
私がこの本で述べ

<https://romancer.voyager.co.jp/>

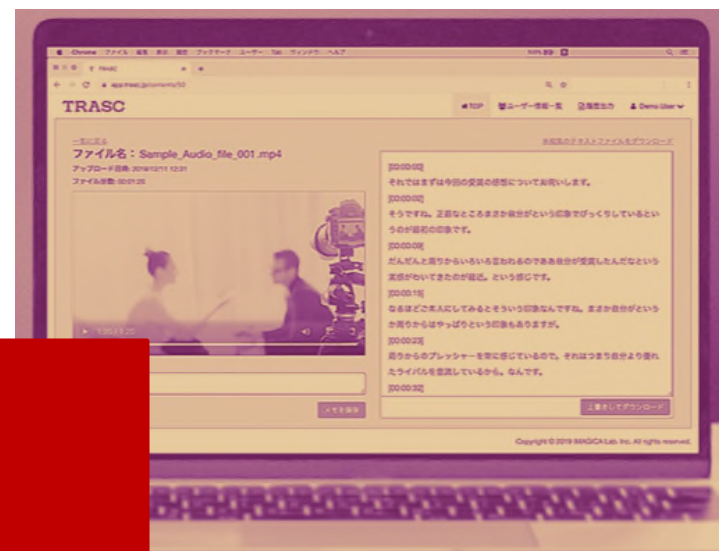
【取組5-1】講義音声解析・字幕付加機能

動画の授業音声をAIが解析し、録画された授業動画に字幕を自動で付与する機能

期待できるAI ティーチングアシスタントとしての効果

- ①専門用語を耳で聞いているだけでは漢字が予測不可能
→字幕が付くことでわかりやすくなる
- ②日本語を母語としない学生
→リスニングに自信がなくても字幕で理解が深まる
- ③わからない箇所が発生した場合に動画は検索がむづかしい
→字幕がついていることで検索が可能になる

動画の字幕から資料を作成することも可能に！



<https://www.trasc.jp/>

【取組5-3】AI-発言・貢献度可視化機能

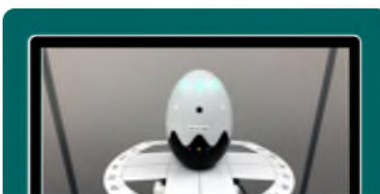


教員補助機能

いくつかのグループに分かれてディスカッションをしている場合にすべてのグループを1人で把握することは不可能

Hylable Discussionがデータを蓄積してくれるので後から確認可能！

Hylable Discussionの特長



たまご型レコーダーを
テーブルに置くだけ！

子供でも大人でも、誰でも簡単に設置できます。電源の確保が難しいような場所でも、モバイルバッテリーで安心してご利用いただけます。専用ボックスに収納できて、持ち運びも便利です。



大人数でも安定した
分析が可能！

学校の授業や規模が大きなイベントや、1000人規模の新人研修のグループディスカッションのようならうるさい環境でも、安定した分析が可能です。



クリックひとつで
簡単に分析！

レコーダーは、ブラウザ操作で簡単に録音できます。複数台のレコーダーも、一斉に録音開始することが可能です。録音からアップロードまで、すべて自動で行われるので、スムーズにご利用いただけます。

<https://www.hylable.com/products/>

学生は自分の発話を可視化して確認することが可能、またデータ蓄積もされます。

【取組5-4】AI-アダプティブ機能（語学）

学修者の理解度や進捗に応じた学習ステップが自動的に提示されるAIエンジンを搭載したLMSの機能を活用し、
1人1人にあわせた英語学習の場を提供！



The diagram illustrates the AI-Adaptive Module for KnowledgeDeliver (LMS). It features a central flowchart of questions (Q1-Q10) branching from a central point. A student icon on the left is labeled '受講者' (Student) and an instructor icon on the right is labeled '教育機関' (Educational Institution). A speech bubble from the student says: 'AIが、つまずきやすい箇所を把握し、重点的にフォローすることで受講者の弱点克服に役立ちます。' (AI grasps the parts where students struggle and provides focused support to help overcome their weaknesses). A speech bubble from the instructor says: '受講者一人ひとりに寄り添った教材の提示や出題により、きめ細かい教育を行えます。' (By providing materials and questions tailored to each student, we can provide detailed education). The text 'アダプティブ' (Adaptive) is written near the flowchart.

KnowledgeDeliver (LMS) 向け
AI-Adaptiveモジュール

一人ひとりに合わせた最適なテスト問題を提示

受講者の学習理解度や弱点などに応じて、より学習効果が高まると思われるテスト問題をAIがテスト問題群から抽出して出題提示します。その抽出ロジックは説明可能として必要に応じて提示します。

受講者

教育機関

<https://www.digital-knowledge.co.jp/product/edu-ai/>

【取組6】「学修成果の可視化」



初等中等段階に比べて大学生は自分がどれくらい頑張ったのか認識することが困難でした。



どれくらい学修したのか(頑張ったのか)を可視化して学修者に提示します

<https://www.digital-knowledge.co.jp/product/kd/>

本日ご説明させていただきました。各種取り組みにつきましては
現在、鋭意準備中です。

2021年10月から始まる秋学期より順次、学修活動での活用を行っていきます。

この成果についてはぜひ皆様と共有させていただきたいと考えております。



ご清聴ありがとうございました。



A promotional banner for the International Department and Faculty of Letters. The banner is divided into several sections. On the left, there is a collage of images: a man's face with a vertical split (one side blonde, one side dark hair), a modern building, and a group of people walking. In the center, the text reads "国際学部 文学部" (International Department Faculty of Letters) and "2022年 4月誕生" (Born in April 2022). Below this, it says "— 学部紹介ムービー公開中 —" (Department Introduction Movie is now public). On the right, there is another collage: a woman's face with a vertical split (one side anime-style, one side realistic), a woman in a kimono, and a pagoda. The background of the banner is a mix of purple and dark red.

https://nyushi.otemon.ac.jp/new_faculty/